

# 大阪府

## 中河内二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

2018年7月26日

大阪府中河内医療・病床懇話会

# Contents

## 1 中河内二次医療圏の概要

- (1) 今後の医療需要の見込み
- (2) 医療体制の概要
- (3) 診療実態の分析の結果

## 2 高度急性期から急性期(急性期一般※)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) MDC別診療実績の推移(DPC)
- (4) 現状と課題のまとめ

※急性期一般入院基本料 (旧7対1、10対1)

## 3 急性期(地域一般※)から回復期の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

※地域一般入院基本料 (旧13対1、15対1)

## 4 長期療養(慢性期)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

## 5 将来のあるべき医療体制に向けて

- (1) 2025年に各病院が検討している  
医療機能・病床機能
- (2) 目標とする指標(案)

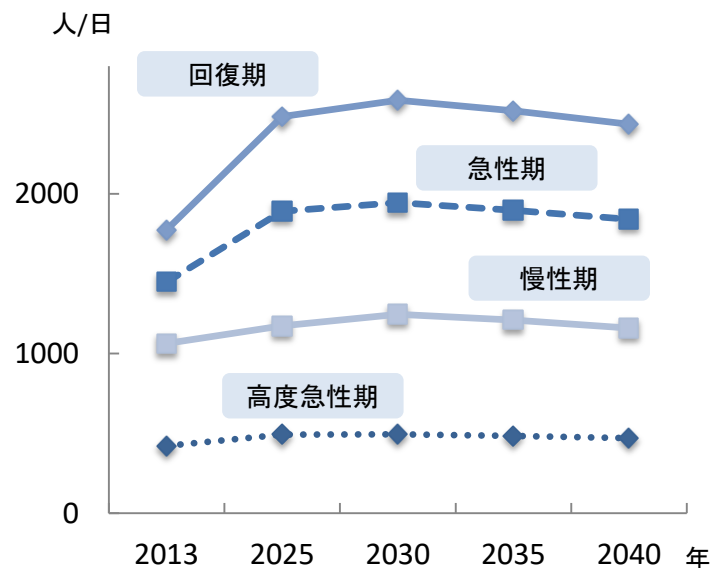
## 6 大阪府中河内医療・病床懇話会での意見

第1回病院連絡会でのみ  
提示

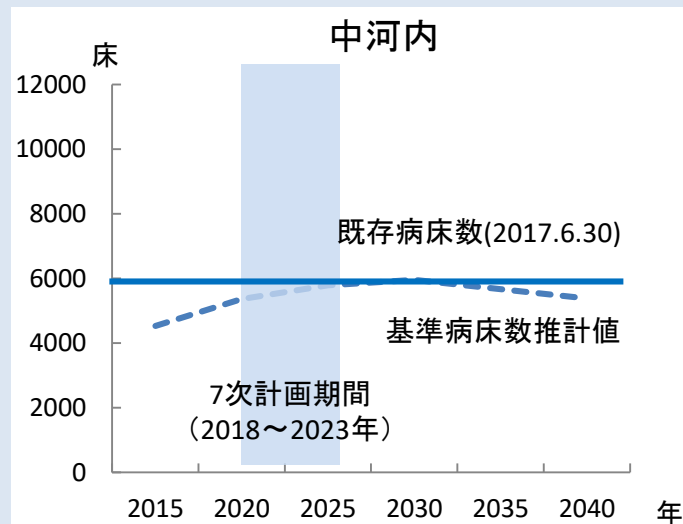
# 1 中河内二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

中河内二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みにおいて、2030年に、既存病床数を上回る可能性あり

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	421	493	1.17	495	1.17	483	1.15	471	1.12
急性期	1,449	1,890	1.30	1,945	1.34	1,898	1.31	1,841	1.27
回復期	1,774	2,483	1.40	2,585	1.46	2,519	1.42	2,436	1.37
慢性期	1,062	1,173	1.10	1,246	1.17	1,210	1.14	1,159	1.09
合計	4,706	6,039	1.28	6,271	1.33	6,110	1.30	5,907	1.26

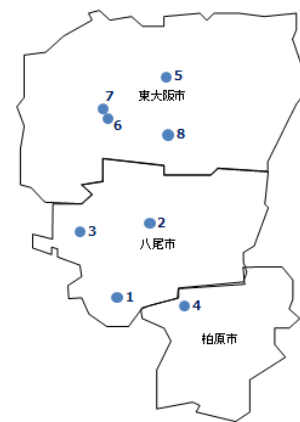
参照：第7次大阪府医療計画  
一部改編

# 1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

中河内二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が3病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が1病院である

## ●主な医療施設の状況

所在地	病院名	新公立病院改革プラン補足調査対象	公的医療機関等2025プラン対象病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院
八尾市	社会医療法人医真会医真会八尾総合病院					○											
	医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院									○							
	八尾市立病院	○			○		○			□				○			
柏原市	市立柏原病院	○					○			○							
東大阪市	医療法人藤井会石切生喜病院									○							
	大阪府立中河内救命救急センター						○				○	○					
	市立東大阪医療センター	○			○		○			□		○		○			○
	社会医療法人若弘会若草第一病院		○		○	○			○	○							
合計		3	1	0	3	2	4	0	1	6	1	2	0	2	0	0	1



※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。

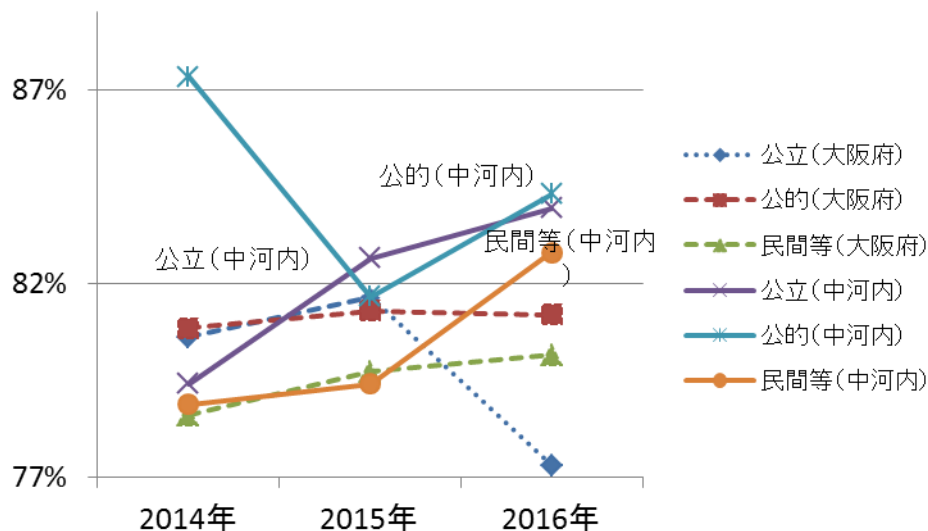
※ 「周産期母子医療センター」の○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

# 1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②

過去3か年に中河内二次医療圏では、公立・民間等において、病床稼働率は上昇傾向にあり、平均在院日数は公立・公的・民間等ほぼ横ばいである

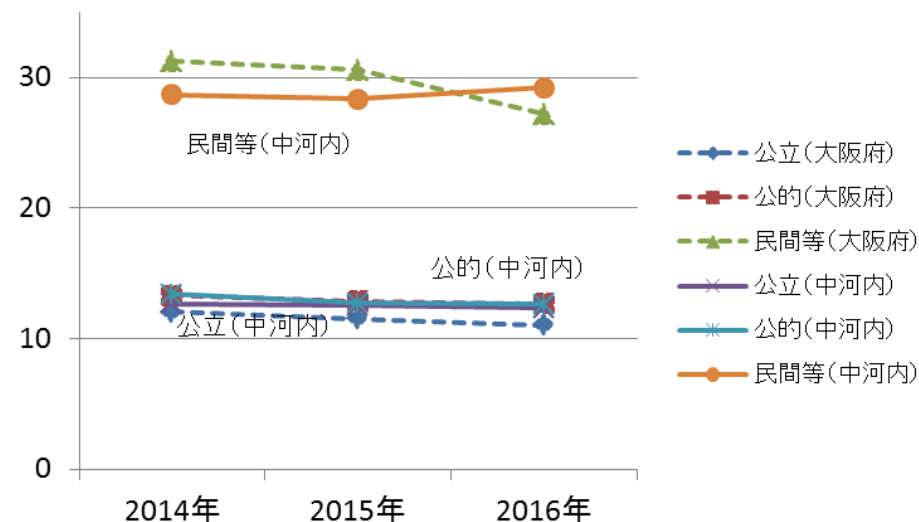
## 1 病床の運用状況

●病床稼働率（在院患者数、許可病床数から算出）



※各年6月30日から翌7月1日まで

●平均在院日数（在院、新規入院、退院患者数から算出）



※各年6月30日から翌7月1日まで

参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

2 各病院の医療機能一覧(資料2-2 P4)

3 各病院の非稼働病床への対応状況一覧(資料2-2 P2)

# 1 中河内二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果①

## 入院基本料の看護配置が多くなるほど、(重症)急性期と分類される病棟の割合が高くなる傾向

### ● 急性期報告 病床数(病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	2,245	67.6%
地域急性期	1,078	32.4%
欠損値	17	
計	3,340	

### ● (参考) 高度急性期報告 病床数 (病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	643	98.6%
地域急性期	9	1.4%
欠損値	30	
計	682	

### ● 診療報酬別の急性期病床の分析結果

診療報酬別区分	分析病床数					(参考) 不明病床数
	合計	(重症)急性期		地域急性期		
		病床数	割合	病床数	割合	
一般病棟7対1	1,293	1,184	91.6%	109	8.4%	0
一般病棟10対1	1,070	780	72.9%	290	27.1%	0
一般病棟13対1	60	0	0.0%	60	100.0%	0
一般病棟15対1・特別	730	198	27.1%	532	72.9%	0
小児入院医療管理料	83	83	100.0%	0	0.0%	0
緩和ケア病棟入院料	25	0	0.0%	25	100.0%	0
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	62	0	0.0%	62	100.0%	0
不明	0	0		0		17
合計	3,323	2,245	67.6%	1,078	32.4%	17

参照：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧（病床機能報告暫定結果）

# 1 中河内二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果②

## 病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、中河内二次医療圏で約8%程度同機能への転換が必要と推計できる

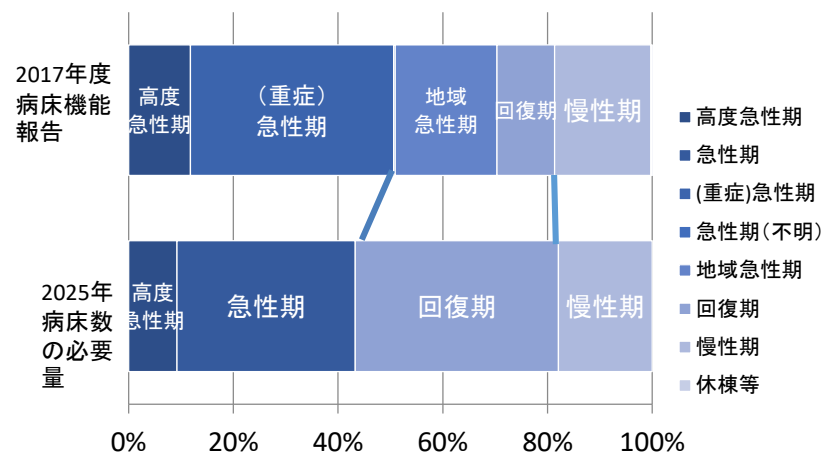
### ● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
病床数の必要量	2013	562	1,857				1,971	1,155			5,545
病床機能報告	2014	163	3,527				427	1,375	0	487	5,979
病床機能報告	2015	490	3,387				508	1,257	32	224	5,898
病床機能報告	2016	460	3,453				624	1,051	14	276	5,878
病床機能報告	2017	682		2,245	17	1,124	638	1,064	14	—	5,893
病床数の必要量	2025	657	2,424				2,759	1,275			7,115
		合計		3,386							

※有床診療所における急性期報告病床は、地域急性期に分類。

### ● 病床機能報告（2017年度）と病床数の必要量（2025年）の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等
病床機能報告	2017	11.8%		38.8%	0.3%	19.4%	11.0%	18.4%	0.2%	—
病床数の必要量	2025	9.2%	34.1%				38.8%	17.9%		



### サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

#### ① 病床機能報告

地域急性期 + 回復期 30.5%

#### ② 病床数の必要量

回復期 38.8%

割合の差 8.3%

※少数第2位を四捨五入しているため、単純な割合の差とはなっていない。

## 2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (1) 病床の現状

人口10万人あたりの病床数は「一般病棟10対1」を除き府平均より少なく、病床稼働率は「救命救急入院料・特定集中治療室管理料等」と「小児入院医療管理料」が府平均より低い

### ●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	中河内		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	124床	15床	2,071床	23床
小児入院医療管理料	83床	10床	1,578床	18床
特定機能病院一般病棟入院基本料等	0床	0床	4,945床	56床
一般病棟7対1	1,851床	221床	28,048床	317床
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	558床	66床	5,695床	64床
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	1,293床	154床	22,353床	253床
一般病棟10対1	1070床	127床	9,147床	103床

### ●病床の利用状況

入院料区分	中河内		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在棟日数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	64.1%	5.2	70.5%	4.7
小児入院医療管理料	66.5%	5.3	74.4%	6.7
特定機能病院一般病棟入院基本料等			80.7%	12.2
一般病棟7対1	84.9%	11.8	82.3%	10.9
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	87.8%	11.8	84.8%	8.8
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	83.6%	11.7	81.7%	11.5
一般病棟10対1	80.7%	14.7	75.6%	14.9



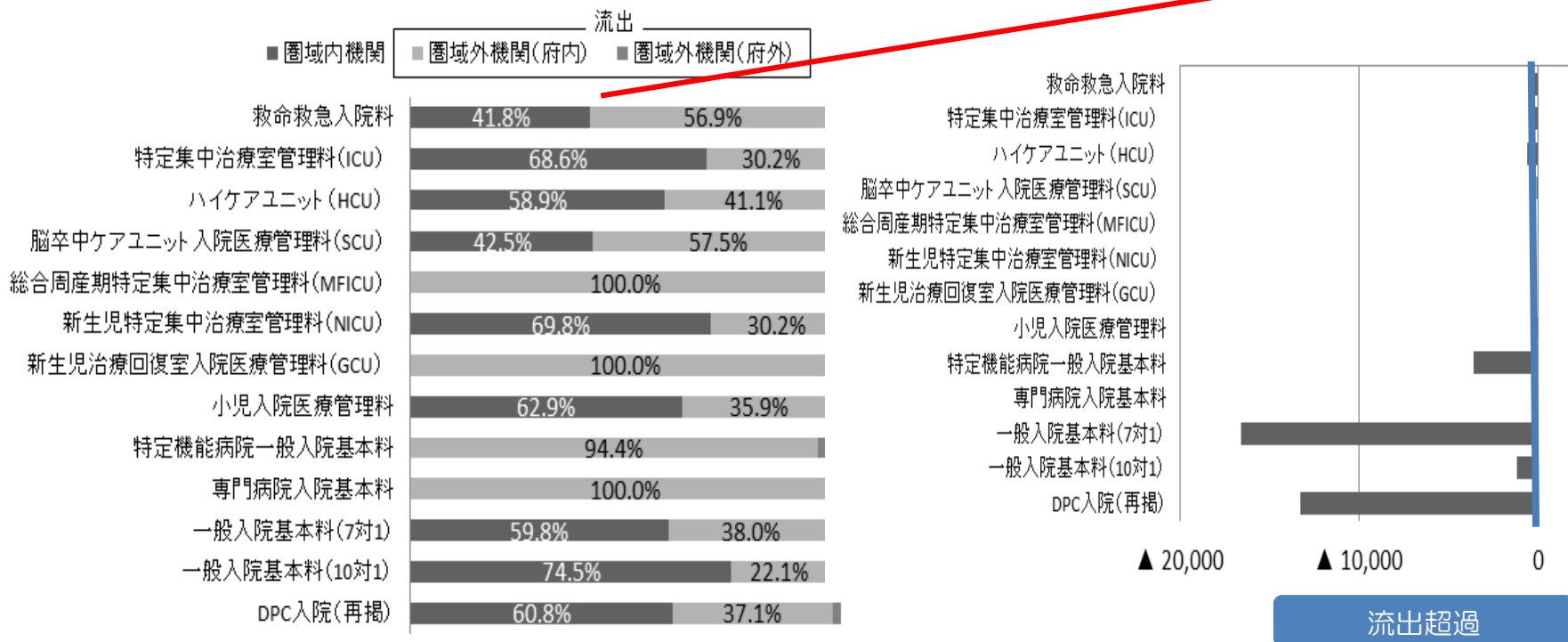
## 2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ①

各入院料の自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は、「一般入院料(10対1)」を除きすべて7割以下であり、特に、「一般入院料(7対1)」において、流出超過の傾向が見られる

### 1 入院基本料別の状況

#### (1) 患者受療状況

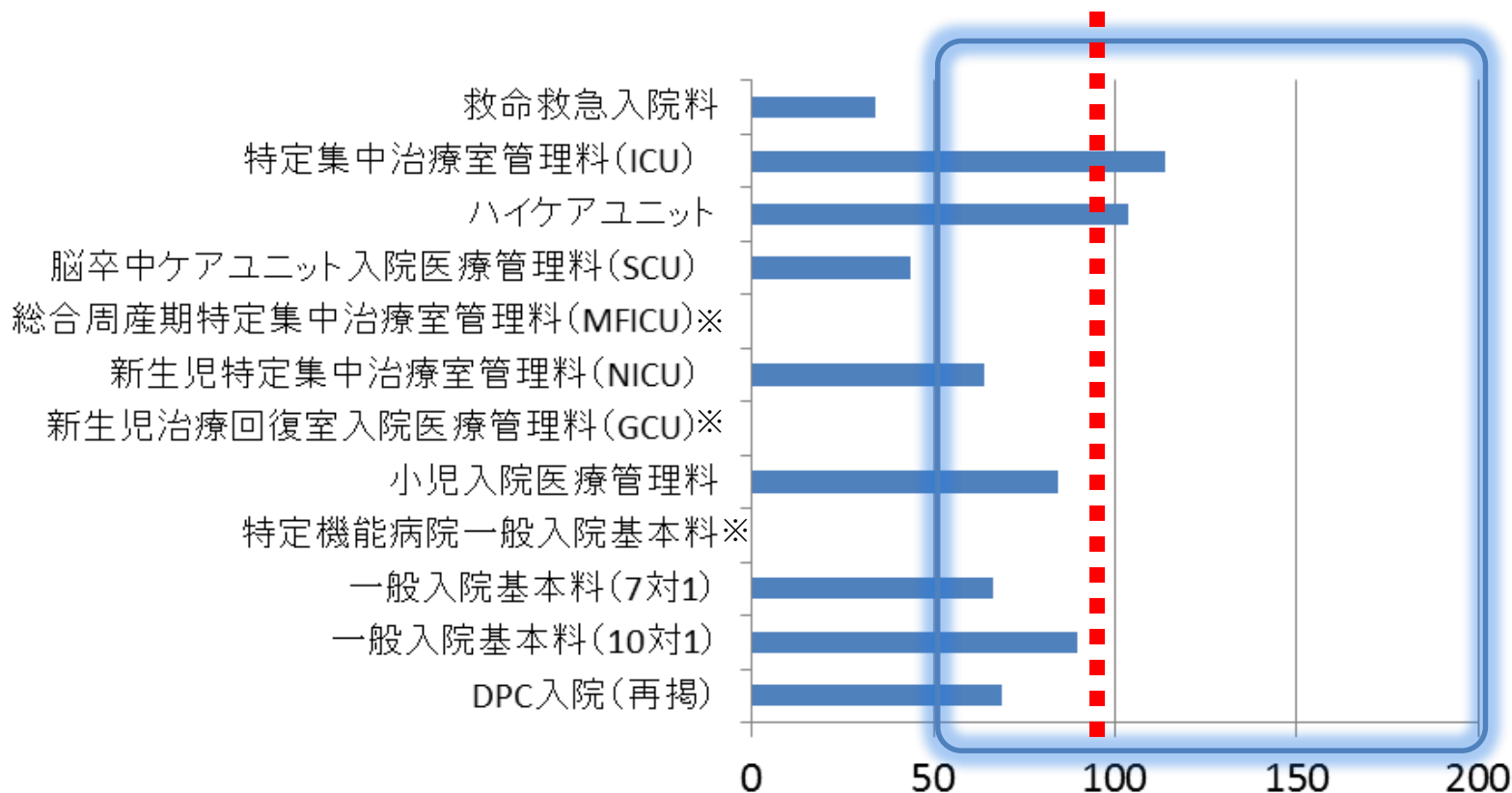
救命救急入院料にかかる自己完結率は「41.8%」



参照：【資料2-4】中河内二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

「特定集中治療室管理料(ICU)」と「ハイケアユニット」を除く各入院料はSCRが全国平均に満たない

(2) 医療提供状況 (SCR)

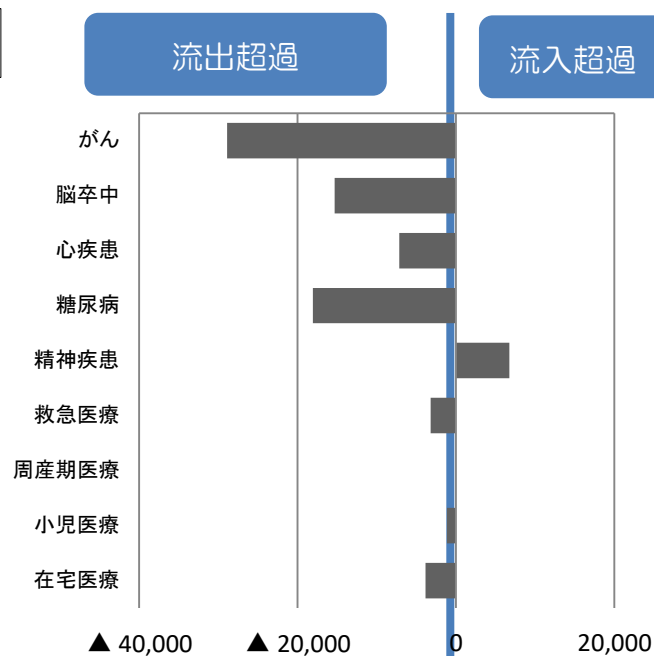
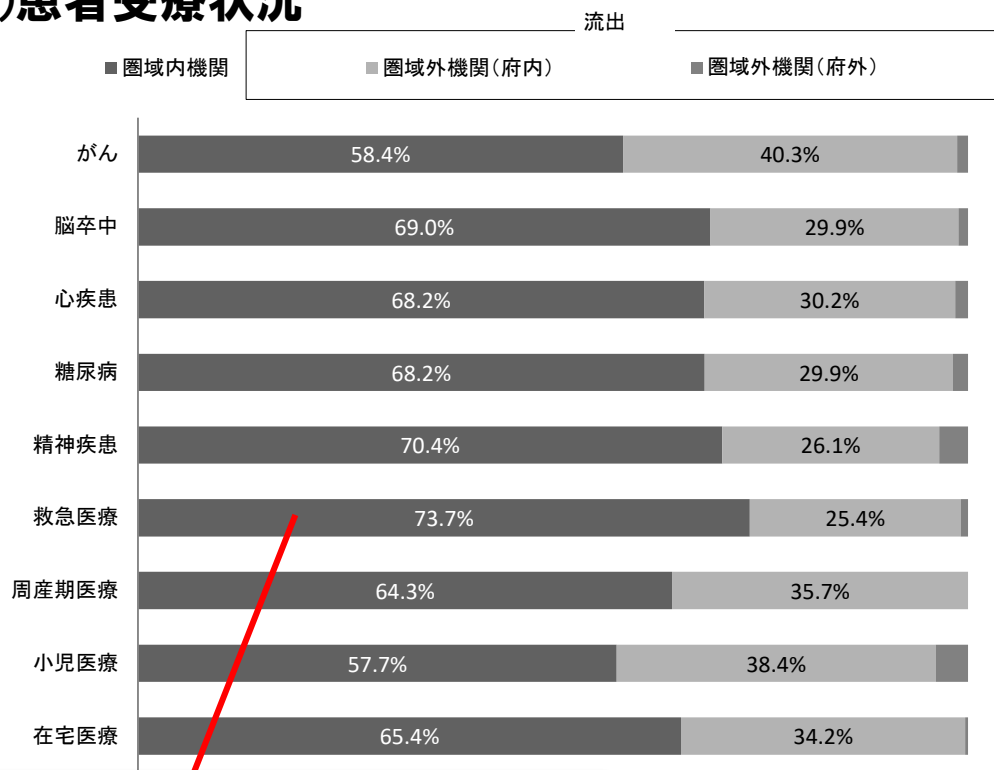


※入院料は、取得している医療機関がないため未算出

疾病・事業の自己完結率は6割から7割であり、4疾病において流出超過の傾向が見られる

## 2 5疾病4事業・在宅医療

### (1) 患者受療状況

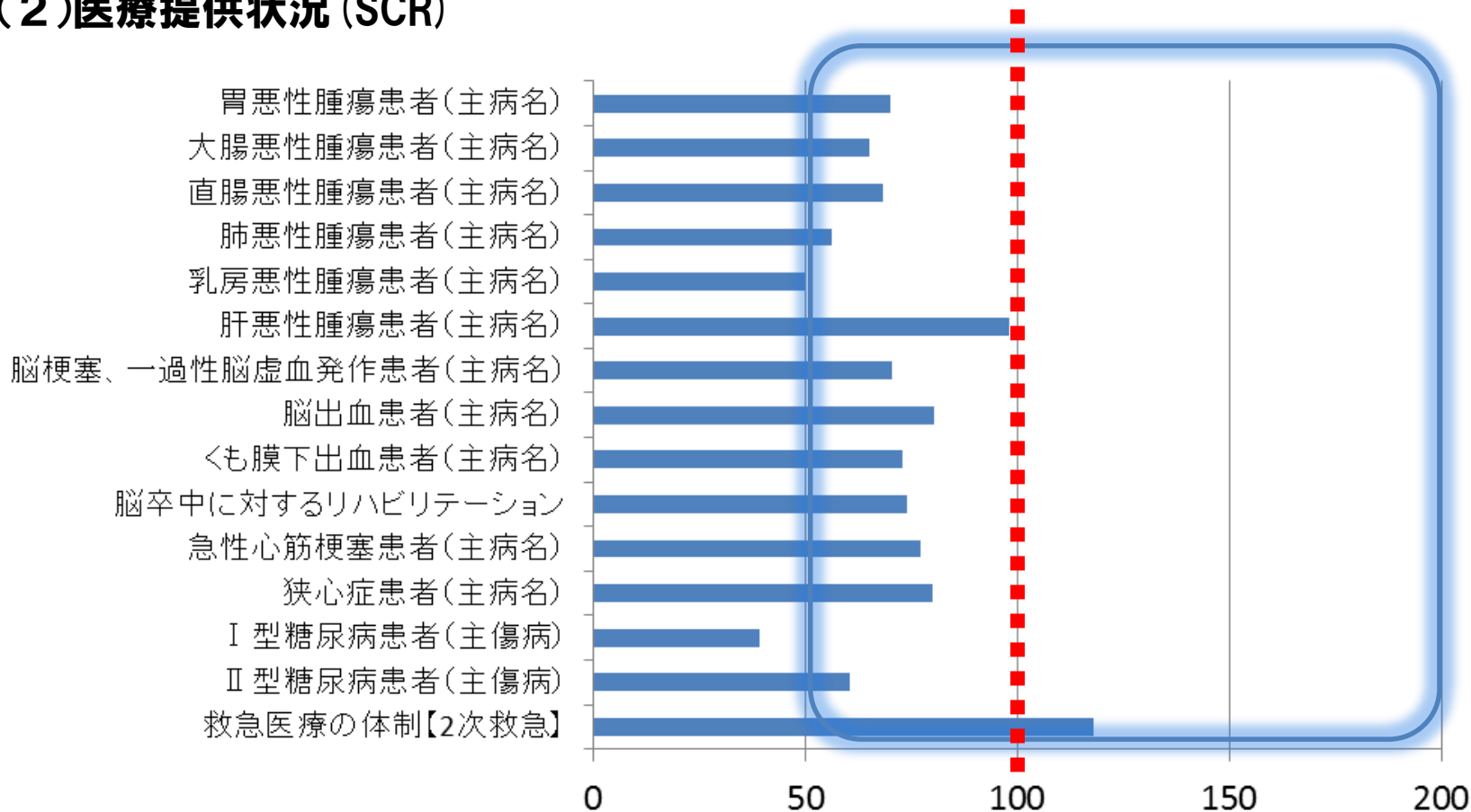


救急医療にかかる自己完結率は「73.7%」

参照：【資料2-4】中河内二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

多くの疾患について、SCR100以下が多く、I型糖尿病患者についてはSCR50以下である

### (2)医療提供状況 (SCR)

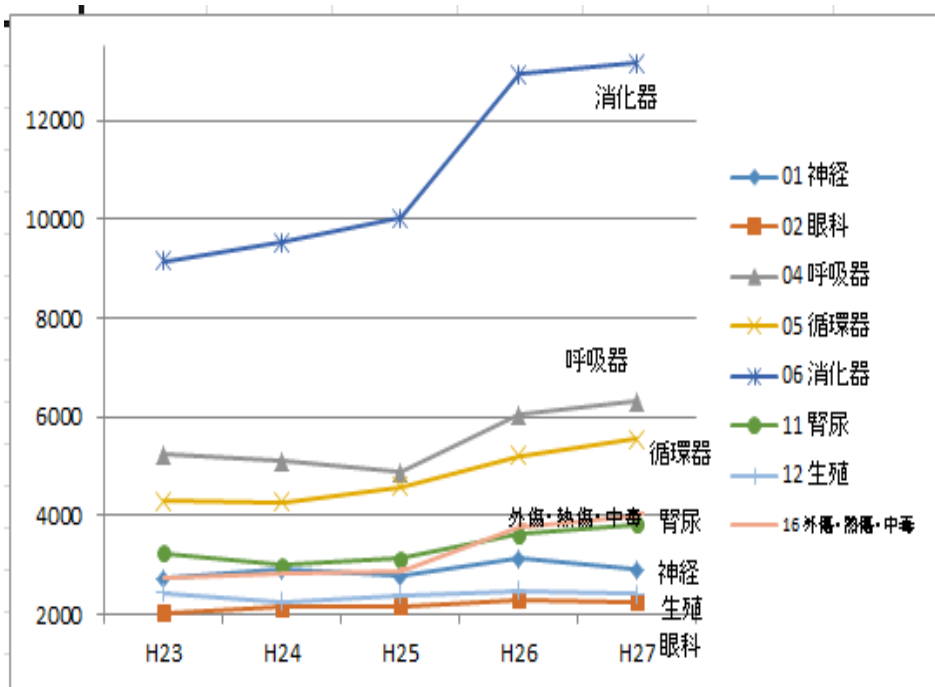


参照：【資料2-5】中河内二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

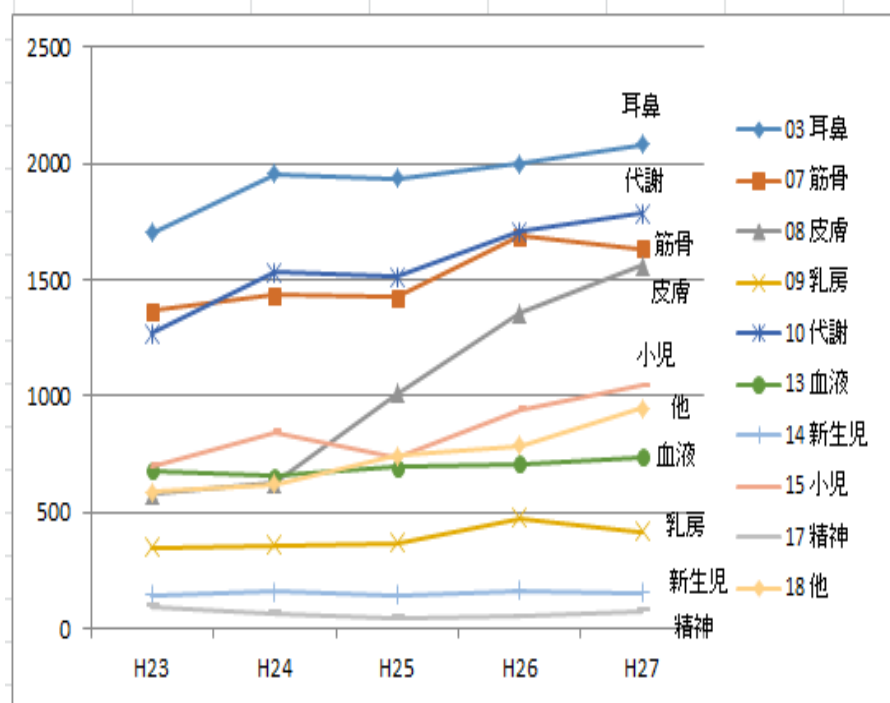
## 2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (3) MDC別診療実績の推移(DPC)

部位別の診療実績については、多くの部位において増加傾向、もしくは横ばいの状態で推移している

● 診療実績2,000件以上



● 診療実績概ね2,000件未満



参照：【資料2-6】DPC参加病院と中河内二次医療圏におけるMDC別診療実績の推移

## 2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (4) 現状と課題のまとめ

- 人口10万人あたりの病床数は「一般病棟10対1」とを除き府平均より少ない。
- 病床稼働率は「救命救急入院料・特定集中治療室管理料等」と「小児入院医療管理料」が府平均より低い。
- 各入院料の自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は、「一般入院料(10対1)」を除きすべて7割以下であり、特に、「一般入院料(7対1)」において、流出超過の傾向が見られる。
- 「特定集中治療室管理料(ICU)」と「ハイケアユニット」を除く各入院料はSCRが全国平均に満たない。
- 疾病・事業の自己完結率は6割から7割であり、4疾病において流出超過の傾向が見られる。

### 3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (1) 病床の現状

人口10万人当たりの病床数では、多くの入院料において、府平均以下であるが、病床稼働率では、「地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料」「回復期リハビリテーション病棟入院料」等が府平均より高くなっている

#### ●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	中河内		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
一般病棟13対1	60床	7床	2,277床	26床
一般病棟15対1・特別	828床	99床	3,427床	39床
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	137床	16床	2,434床	28床
回復期リハビリテーション病棟入院料	384床	46床	5,912床	67床
緩和ケア病棟入院料	25床	3床	593床	7床

#### ●病床の利用状況

入院料区分	中河内		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
一般病棟13対1	57.0%	23.8	71.4%	21.0
一般病棟15対1・特別	78.6%	44.7	69.3%	35.8
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	88.6%	27.3	77.7%	24.0
回復期リハビリテーション病棟入院料	91.5%	65.3	89.6%	61.4
緩和ケア病棟入院料	58.3%	24.3	70.7%	25.2

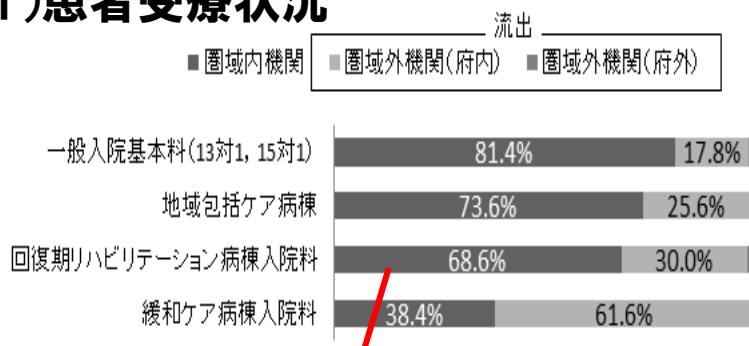
参照：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧（病床機能報告暫定結果）

### 3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)①

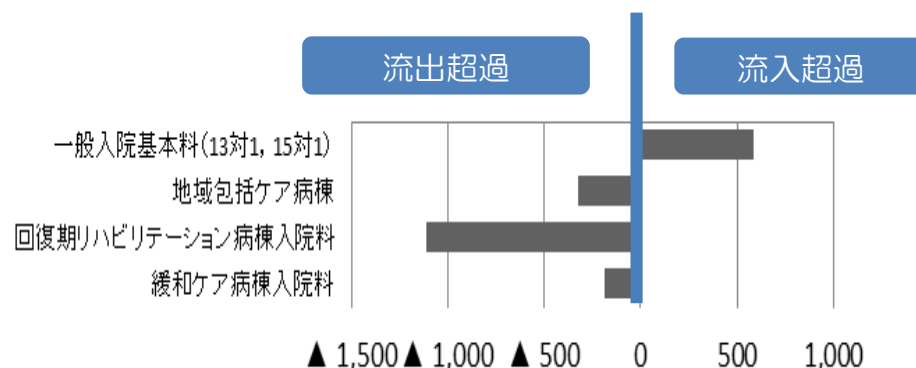
「一般病棟15対1・特別」は流入超過であり、「回復期リハビリテーション病棟」は、特に流出超過が認められ、また、地域包括ケア病棟はSCRが50を下回っている

## ○入院基本料別の状況

### (1)患者受療状況

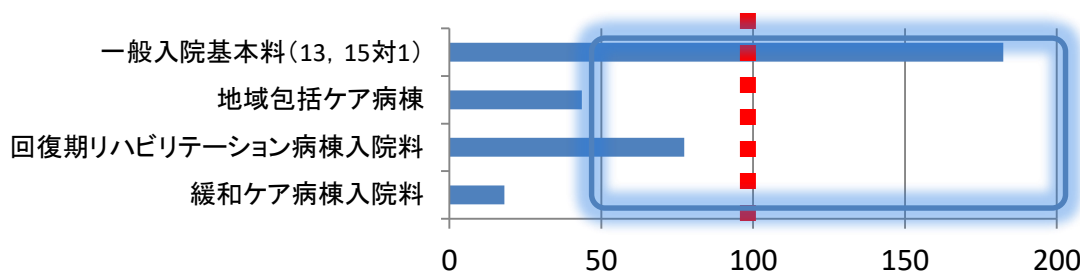


回復期リハビリテーション病棟の自己完結率は「68.6%」



参照：【資料2-4】中河内二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

### (2)医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】中河内二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

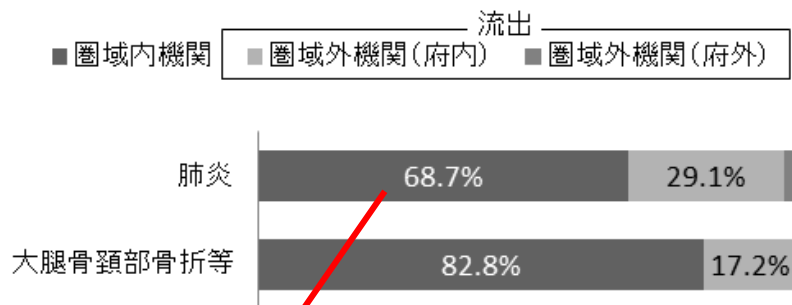


### 3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)②

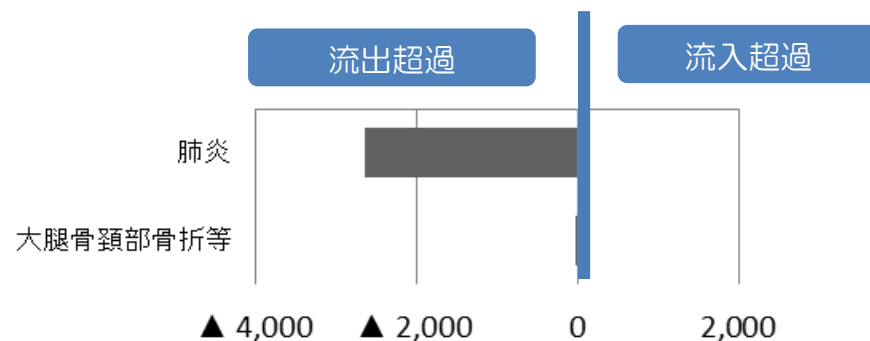
肺炎については、自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)が、7割を下回り、流出超過の傾向がみられる

## ○肺炎・大腿骨頸部骨折

### (1) 患者受療状況

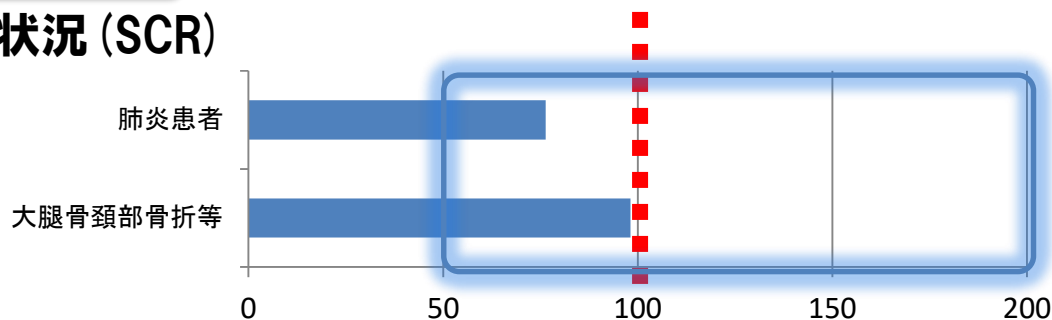


肺炎の自己完結率は「68.7%」



参照：【資料2-4】中河内二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

### (2) 医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】中河内二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

### 3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (3) 現状と課題のまとめ

- 人口10万人当たりの病床数では、人口10万人当たりの病床数では、「一般病棟15対1・特別」は府平均の2倍以上であるが、それ以外は、すべて府平均以下である。
- 病床稼働率では「一般病棟15対1・特別」「地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料」「回復期リハビリテーション病棟入院料」は府平均より高くなっている。
- 「一般病棟15対1・特別」は流入超過であり、「回復期リハビリテーション病棟」は、特に流出超過が認められ、また、地域包括ケア病棟はSCRが50を下回っている。

## 4 長期療養(慢性期)の概要 (1) 病床の現状

入院料において「介護療養病床」を除き、人口10万人当たりの病床数が府平均より大きく下回り、病床稼働率は、「療養病棟入院基本料1」を除くと、いずれも府平均より高い

### ●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	中河内		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
療養病棟入院基本料1	618床	74床	14,414床	163床
療養病棟入院基本料2	33床	4床	2,351床	27床
介護療養病床	210床	25床	1,788床	20床
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	227床	27床	5,881床	67床

### ●病床の利用状況

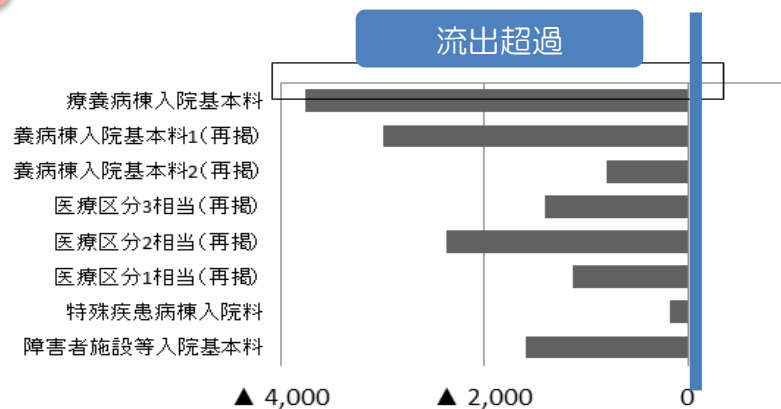
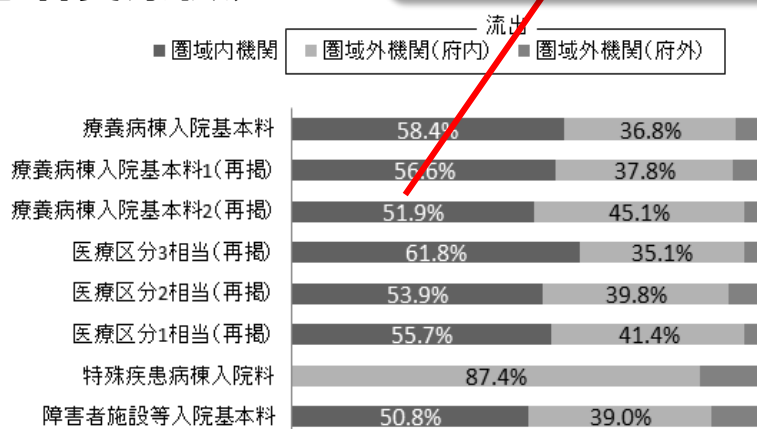
入院料区分	中河内		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
療養病棟入院基本料1	83.8%	236.1	89.6%	219.5
療養病棟入院基本料2	82.1%	520.6	81.3%	203.2
介護療養病床	93.2%	498.9	93.0%	339.0
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	93.4%	86.9	86.7%	95.4

# 4 長期療養(慢性期)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)

「療養病棟入院基本料2」「基本料1」は自己完結率が5割～6割であり、いずれの入院料も流出超過であり、SCRも50程度となっている

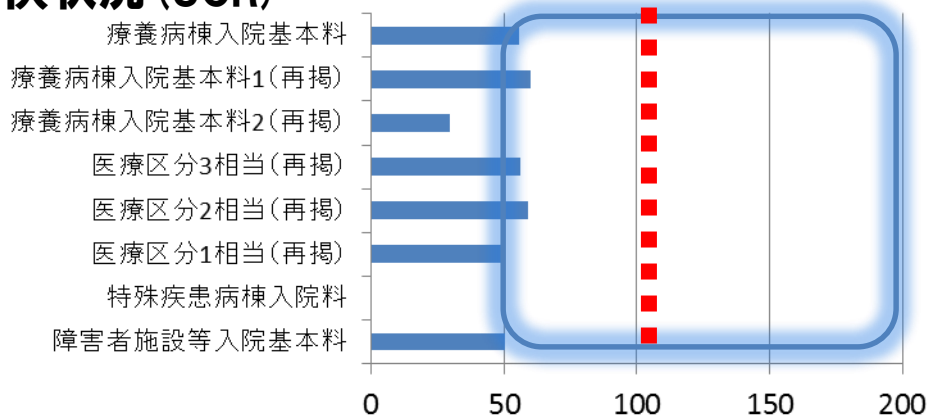
## ○入院基本料別の状況 (1)患者受療状況

療養病棟入院基本料2の自己完結率は「51.9%」



参照：【資料2-4】中河内二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

## (2)医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】中河内二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ) 20

## 4 長期療養(慢性期)の概要 (3) 現状と課題のまとめ

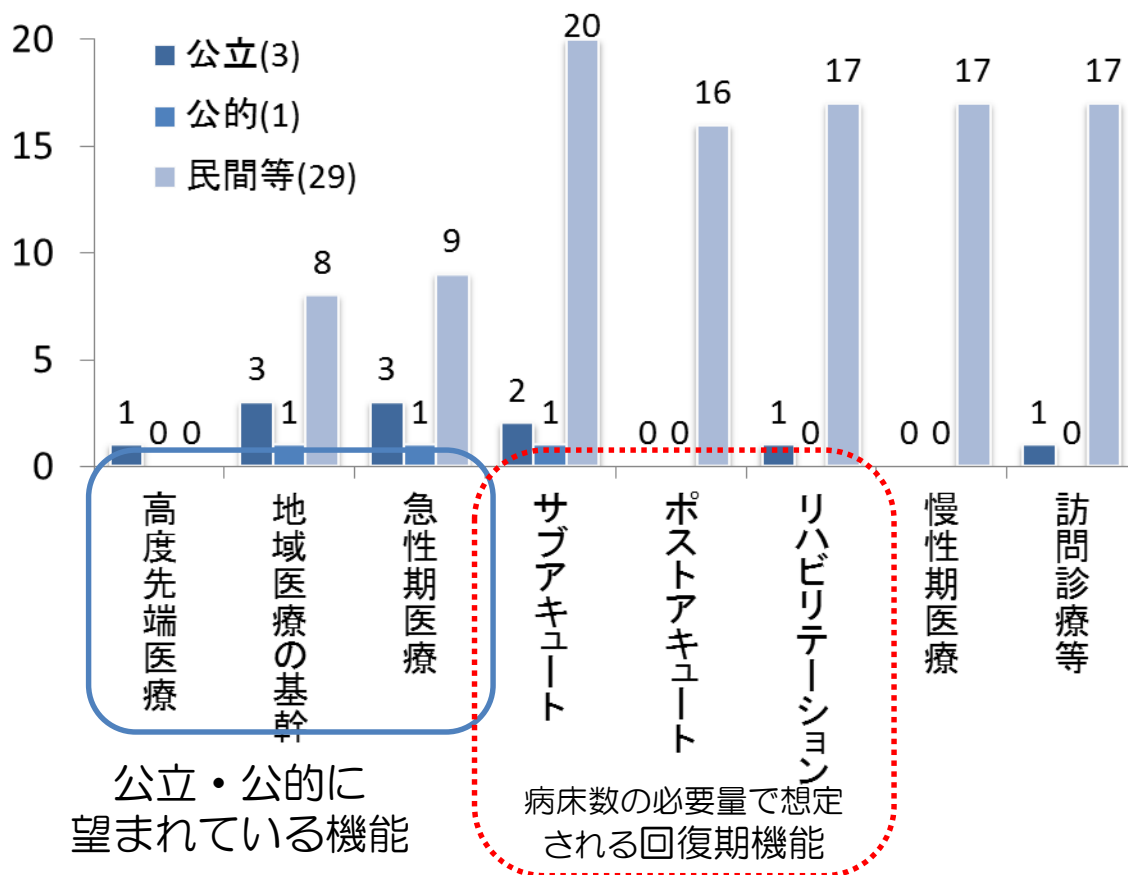
○入院料において「介護療養病床」を除き、人口10万人当たりの病床数が府平均より大きく下回り、病床稼働率は、「療養病棟入院基本料1」を除くと、いずれも府平均より高い。

○今後の病床機能分化にあたっては、療養病棟入院基本料2、介護療養病床の在り方にも留意し、検討していく必要がある。

# 5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能①

回復期や慢性期、訪問診療等は多くの民間医療機関が、担っていききたいと考えている

## 1 病院自身が将来担うべきと回答している病床機能

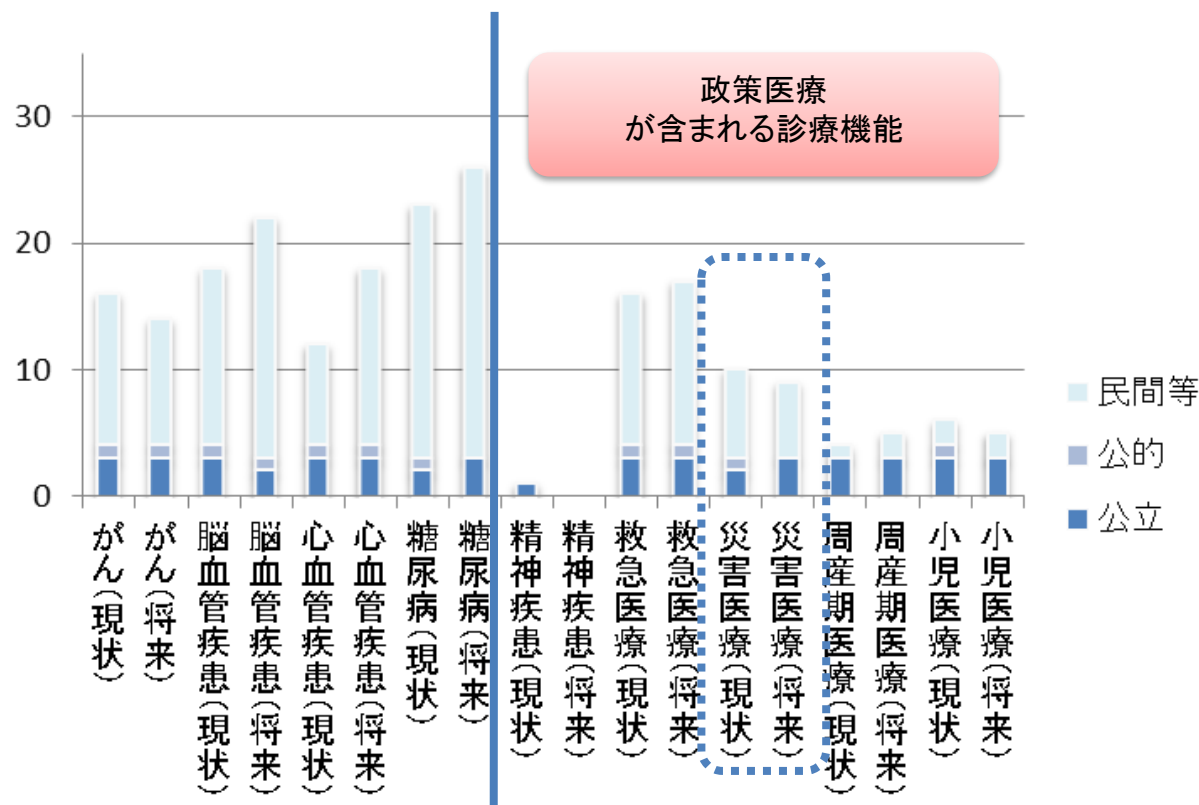


参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

## 5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能②

災害医療・小児医療等の政策医療が含まれる診療機能について、公立・公的の医療機関は引き続き担っていくと回答している

### 2 将来担うべきと回答している診療機能と現状との比較※



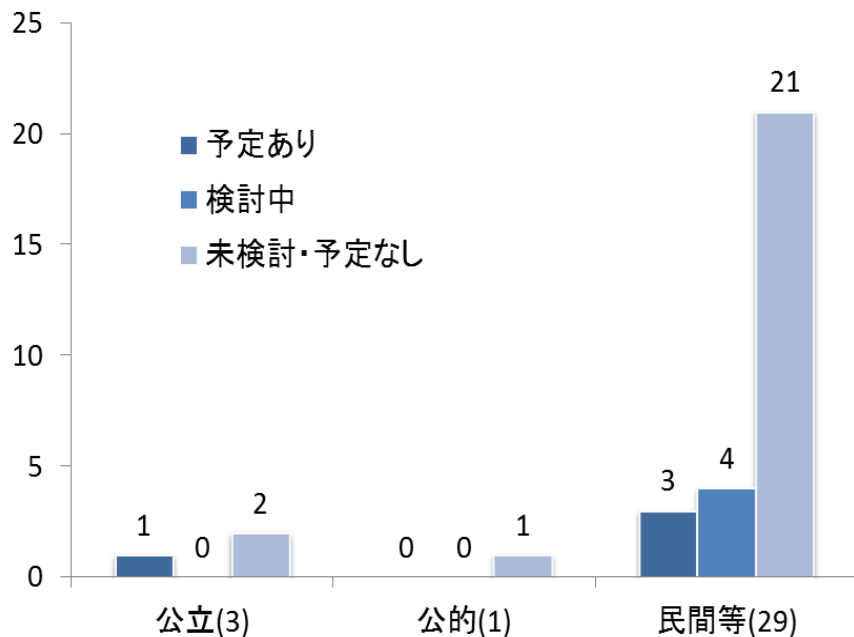
※「現状」は、第7次大阪府医療計画の策定にあたり、医療機能情報提供制度に係る医療機関調査等の結果をとりまとめたもの。「将来」は、特に定義を定めていないため、比較には留意が必要。

## 5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能③

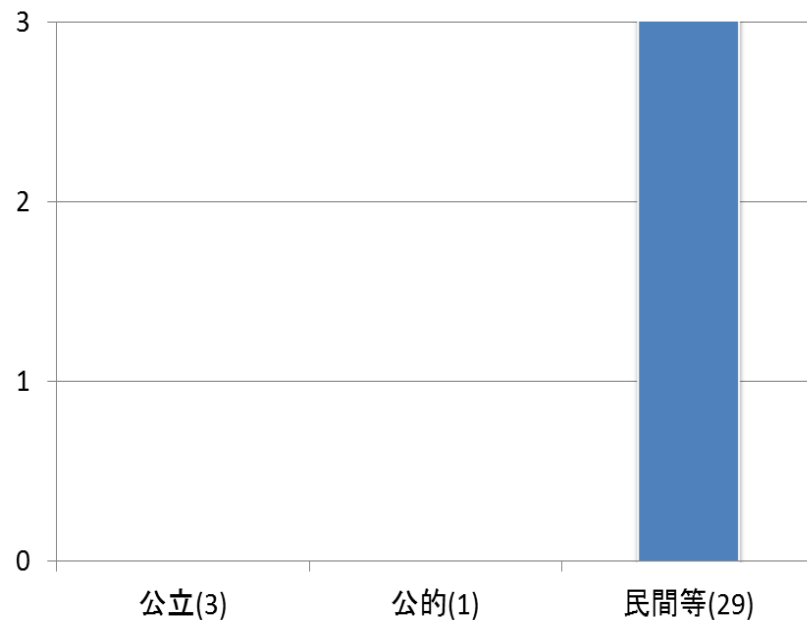
公立病院では1病院と民間等では3病院が、2025年に向けた病床機能・病床数の変更等を予定しているが、圏域内の7割強の病院が、「未検討・予定なし」と回答している

### 3 2025年に向けた各病院のプランのまとめ

● 2025年に向けた病床機能・病床数等の変更予定の有無



● 地域医療介護総合確保基金（病床転換に対する一部経費の補助金）の活用の希望



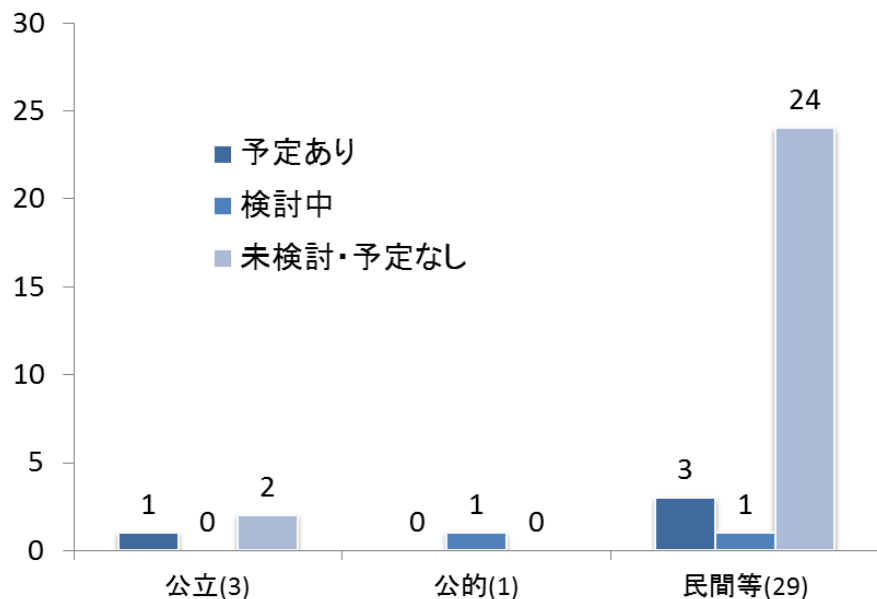
参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）



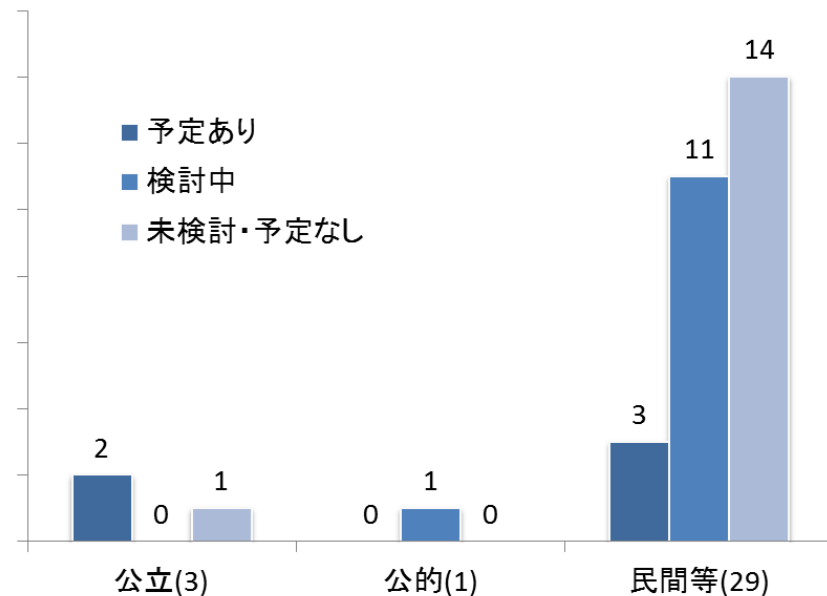
## 5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能④

概ね半数の医療機関において、2025年に向けた建物・設備の整備・改修について、予定があるか、検討中となっている

●2025年に向けた診療科の見直しの予定の有無



●2025年に向けた建物・設備の整備・改修予定の有無



参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

### 4 2025年までに各病院が検討している医療機能(資料2-2 P6) ・病床機能(資料2-2 P8,P11,P12)一覧

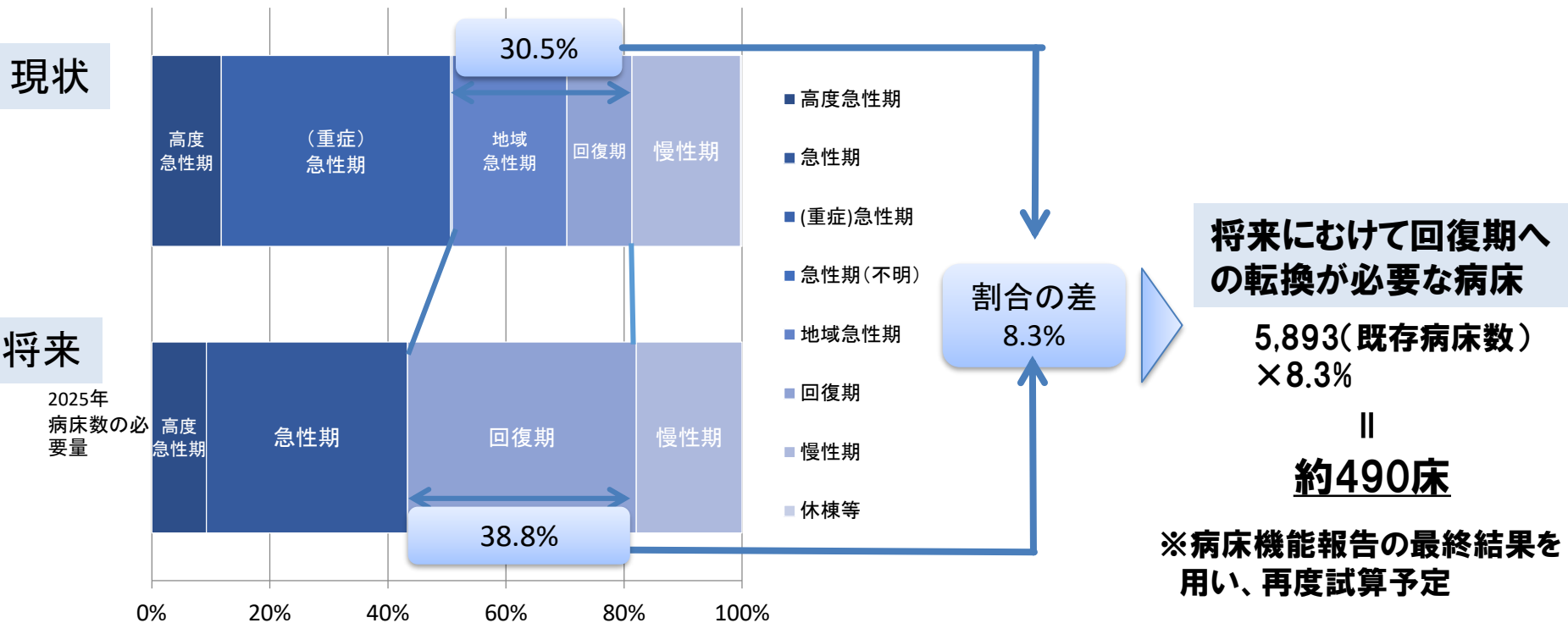
## 5 将来のあるべき医療体制に向けて（1）2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能のまとめ

○病院プラン等の調査の結果は、2025年に向けた病床機能・病床数の変更等について、現時点では、圏域内の7割強の病院が「未検討・予定なし」としている。

○公立病院は、引き続き地域の急性期医療、政策医療を担う方針であり、また公的病院および民間病院については、地域急性期医療を含め急性期医療から在宅医療まで、現在の医療機能を継続していく方針である。

## 5 将来のあるべき医療体制に向けて (2) 目標とする指標(案)

### 1 2025年に向け回復期(サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ)機能への転換が必要と考えられる病床(暫定値)



- ( 2 圏域内の医療機関への入院割合 )
- ( 3 病床稼働率 )